

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会だより

第3号 2003年9月30日

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

発行責任者： 篠崎 将 Tel/Fax: 04-7173-6353

いよいよ収穫

水田稲作部会



稲を刈る人、束ねる人

名戸ヶ谷小学校の子どもたち・先生方にも田植え後、8月の写生会、雀追いのテープ張りの手伝い、畦の草刈り、と手助けをいただきました。そして9月11日、津田校長を含む3人の先生方、お手伝いに駆けつけたお母さん方と5年生74人の手で稲作水田の約半分の稲刈りを行いました。刈り取った稲はみんなでリヤカーに乗せて学校プール横のフェンスに掛けました。みなさん本当にご苦労様でした。

残りの半分は9月13日に稲作部会やお手伝いの皆さんで刈り取って、小学校のフェンスに掛けました。普通なら長靴で稲刈りできるのが、相変わらずの泥んこ田で長靴が抜けず、悪戦苦闘が続きました。子どもたちも大変だったでしょう。また、20日には雨が降り始めたため、運動会で忙しいにもかかわらず先生方が稲を屋根下に取り込んでくださったとのこと、本当にありがとうございました。

脱穀は9月21日(日曜日)、名戸ヶ谷小学校の校庭で、不耕起稲作部会や市の環境保全課の方々も含む20人を越えるみなさんの協力を得て午前中の作業で無事終了しました。小岩井部会長や増田さんに操作の仕方を教わり、昔懐かしい足踏み式脱穀機、木製の手回し初選別機をみんなで交代しながら使った楽しい秋の一日の脱穀作業でした。生まれて初めての脱穀作業という人も多く、みなさん喜々と作業をしながらも、収穫に至るまでの先人たちの米作りの大変な苦労を偲びました。(小笠原 智)



脱穀を終えて

ミニ用語解説

ビオトープとは、ギリシャ語で生命を意味する Bios と場所を意味する Topos を合成したドイツ語で生物の生息空間のことを言います。名戸ヶ谷ビオトープは野生生物の生息・生育空間として、その状態を保持し、また目指して管理しています。(環境保全課)



初体験！ 稲刈り！

名戸ヶ谷小学校5年生の感想

稲刈りを終えてのインタビューから

教科書と違って、田んぼはぐちゃぐちゃだった。

もっと乾いているかと思っていた。(日暮くん)

稲が太くて硬かった。鎌で刈りながらすごく成長したな

と思った。だんだん慣れてきて切れるようになった。(矢野目さん)

稲を束ねる時、巻くのは簡単だけど、指を差し込むのがむずかしかった。(平田くん)

稲刈りは初めてだから、うまくできなかったけど、楽しかった。(吉沢さん)

- 名戸ヶ谷小学校5年生「稲刈り体験作文」より

はじめは田植えの時のようにドロドロになるのが嫌だったけど、入っているうちに楽しくなってきた。農家の人たちは毎年いろいろなことをして、おいしいお米を作っているのだなあと思いました。(西村航一)

初体験の稲刈りでした。最初はぜんぜん稲のゆわき方がわかりませんでした。でもなれてきて、とっても楽しかったです。また機会があったらやりたいです。(浅野浩希)

自然観察会の開催

- 10月4日の「手賀沼流域フォーラム」での発表にむけて

9月8日(月)、名戸ヶ谷小学校5年生を対象に、名戸ヶ谷ピオトープに於いて生きものを中心とした自然観察会を開催しました。当日は天気もよく、昆虫、魚、両生類など30種以上を捕獲し、50種以上を観察することができました。この成果は10月4日の「手賀沼流域フォーラム」で子どもたちが発表することになっています。また、掲示板裏に注いでいる排水路で希少種の淡水魚モロコを採取した児童がいました。まだかなり棲息していると思われます。(篠崎 将)



自然観察会で解説する篠崎会長



発見された希少種モロコ

尚、「手賀沼流域フォーラム」では、5年生が稲作について、4年生は自然観察について発表の予定です。水源から手賀沼までの流域をたどり、古老から昔の話を採取しながら、自分たちで調べた名戸ヶ谷地域の歴史を発表します。

また、名戸ヶ谷小4年生が緑と黄色の2枚の看板を完成させてピオトープに立てました。子どもたちが学習したことや、ここを訪れた人たちに知ってもらいたいこと等を書いて貼る予定です。(中村正照)

追記

小学校の脱穀は9月24日小学校校庭に於いて行われ、初で約200キロの収穫がありました。



黄色の立て看板の前で

不耕起稲作部会

天高く…素晴らしい秋空の下、9月27日(土)、不耕起稲作部会の脱穀作業が開始されました。2台の足踏脱穀機を各3人で、足と手が思うようには動かず挑戦するうちに、次第にスムーズな動き・音となり、籾がどんどん溜まりました。籾と藁くずを分ける唐箕(手で風を起こして藁くずを飛ばし、籾と分ける農具)を使い、出来上がった籾を袋に入れる。朝8時30分からスタートした作業は午前中に終わりました。12時からその場で昼食。働いた後の食事は美味しい。これまでの悪戦苦闘の思い出を語りながら、昔の農家の苦労と楽しみを実感しました。



束ね方も板について

脱穀に至るまでの経過 美しい初稲穂の発見(7月29日)以降

1. 初稲穂の発見

7月29日、稲の白いカワイイ花を発見しました。5月17日の田植えから稲の成長の凄さを見てきましたが、7月29日に一本の穂を発見しました。それから一週間ほどで水田一面が白い花をつけた穂で美しく彩られ、見ているだけで、頼もしく、幸せな気持ちになります。水田の中にはザリガニや蛙が多く、畦を歩くと水面がすばやく動き、ビックリさせられます。

2. スズメ対策…あきらめでした

稲穂が垂れて実りを感じると同時にスズメが50羽ほど現れ、慌てて対策。キラキラテープを張りましたが、その効果は一日だけでした。以来、スズメが美味しそうに稲穂をたべる姿を眺めているだけでした。地方のスズメ対策を見学すると、家の近くの水田にはネットを張ってスズメが入れないようにしていました。スズメに食べられた穂は白く、弱々しく、悲しそうでした。

3. 稲刈りのための水落とし

稲の刈り取りのためには水田の中に入ります。また、実りと共に稲の倒れを防ぐために、土を固める意味で水を落とします。不耕起栽培の特徴はいきもの豊かな田んぼ作りです。今年は一週間我慢して、9月6日(土)に水落としを行いました。沢山のザリガニ、ドジョウ、クチボソも発見できました。

4. 稲刈り

9月13日(土)と14日(日)の両日、大勢の参加の下、楽しくできました。稲刈り作業は14日(日)の午前11時に完了しました。深みに足を取られたり、初めて体験する方も多く、奇声・歓声の響くなか、苦しみを感じることもなく、みんなで楽しみながら無事終了しました。大きなザリガニが穴の中で五右衛門風呂を楽しんでいるかのような姿を沢山発見できました。



5. おだ掛け

刈り取った稲をビオトープの立て看板裏に作ったおだに掛けて天日で乾燥させました。そろそろ大丈夫と思った頃に台風接近による雨。9月24日の午前中、部会会員有志による懸命のビニールシート張りのおかげで、激しい雨から無事に稲を守り、快晴に恵まれた9月28日の脱穀を迎えることができました。



6. 脱穀 - 9月27日(土)

ビオトープの立て看板の裏手の空き地にビニールシートを張り、2台の足踏み脱穀機と木製の籾殻選別機を交代で操作しながら午前中の作業で完了しました。全部で9袋、約300キロ近い収穫でした。

(才川 寿麿)

ピオトープ木道補修

8月17日(日) 破損の著しいAゾーンの板道修理を行いました。材料は環境保全課で調達していただき、作業当日は8名の会員が参加してくださいました。ご苦労様でした。板だけでなく、板を支える角材も白アリや腐食でかなり老朽化しておりますので、来年度は全面改築が必要と思われます。(篠崎 将)



NPO法人化について

名戸ヶ谷ピオトープ活用運営委員会報告書(H14.10)において、育てる会の活動が定着した段階においてNPO化を視野に入れた検討をするとうたわれています。

育てる会も2月に発足以来早くも半年が過ぎ、各部会とも計画に従って活発に活動してきておりますので、

一年後、即ち、来年の春くらいを目標に検討を進めたいと考えております。現在まで、NPO法人化をたちあげた経験のある高田幹事、小島幹事を中心に会長(篠崎)の3名で進め方を検討してきました。小委員会のようなものをつくり、ここで検討した内容を毎月の定例幹事会にはかり、幹事さんの了解を得ながら進めていきます。会員の皆様からも、ご意見、ご要望等があればお寄せ下さい。(篠崎 将)



花だより

三種類のガマは咲き終わって実を結びました。熟した茶色の太い果穂は割れて、白い綿毛をつけた種を飛ばし始めました。ガマと並ぶ大型の植物のヨシ(写真左上)とマコモも花をつけています。いずれもイネ科ですので、地味な花ですが、秋の空によく似合います。

セリの花に次いで、オモダカ(写真右)アカバナが美しい花を開きました。特にアカバナは予想外に多く、その美しい花を今後も残したいものです。水田には稲作と共生する植物が賑わっています。稲刈りの済んだ水田にはキクモの大群がかわいいピンク色の花をつけました。この他にも、コナギ、イボクサなどの数多くの水田植物が花を開いています。9月末には美しいミソソバが一斉に咲くものと思われます。これからもどんな秋の花が見られるのか今から楽しみです。年内の植物観察は10月18日と11月15日で、10時からです。(佐々木 光正)



編集後記

今回は収穫特集ということで、水田稲作部会と不耕起稲作部会の二つの部会報告のみとなりました。水田稲作部会の田んぼの半分の田植え・雑草取り・稲刈り・脱穀は名戸ヶ谷小学校5年生が行いました。

この分の脱穀は運動会明けの9月24日、水田稲作部会員の指導の下に小学校で行われ、籾で約200キロの収穫があったとのこと。したがって今回は、生きもの観察を含めて、名戸ヶ谷小関係の報告に1頁分をとりました。2月に「育てる会」が発足して約半年。各部会の活動も順調に発展し、新たな入会会員も増えました。「育てる会」が地域のより多くの人々に親しまれ、守られ、育てられていくことを願ってやみません。尚、NPO化の進展状況については順次広報でお知らせする予定です。

広報編集部